



カテーテルアブレーション関連秋季大会2026

ランチョンセミナー6

Luncheon Seminar 6

日時 2026年 **11月6日(金)** 11:55~12:55

会場 第**2**会場 奈良県コンベンションセンター 2F
会議室201、202

〒630-8013 奈良県奈良市三条大路1-691-1

アブレーション治療成績をもう一段あげる： 長時間心電図記録×SDBの検査・治療

座長 **新田 順一** 先生

公益財団法人榊原記念財団附属榊原記念病院 副院長

長期ホルター心電図が変えるAF診療

—新時代の不整脈モニタリング戦略—

演者 **坂元 裕一郎** 先生

豊橋ハートセンター 循環器内科部長

アブレーション外来で始める SASスクリーニングとCPAP管理

—2026年診療報酬改定を踏まえて—

演者 **吉澤 尚志** 先生

独立行政法人国立病院機構京都医療センター
循環器内科

本セミナーは事前申込制です

大会ホームページより参加登録後、マイページから
参加希望のランチョンセミナーを選択してください。

<https://new.jhrs.or.jp/catheab/index.html>

共催:カテーテルアブレーション関連秋季大会2026
フクダ電子株式会社

アブレーション治療成績をもう一段あげる： 長時間心電図記録×SDBの検査・治療

長期ホルター心電図が変えるAF診療 —新時代の不整脈モニタリング戦略—

坂元 裕一郎

豊橋ハートセンター 循環器内科部長

2026年6月の診療報酬改定により、長時間心電図検査に新たな評価が加わり、長期ホルター心電図を活用しやすい環境が整った。AF診療では、アブレーション前の適応判断や術後再発評価において、無症候性AFを含めたAF burdenの正確な把握が重要である。しかし、24時間ホルターでは発作性・低頻度のAFを十分に捉えられない場合も少なくない。本セミナーでは、フクダ電子の新しい長期ホルター「Liz」の特長と実臨床での運用について紹介するとともに、長期ホルターによるAF検出率向上に関する最新のエビデンス、および当院の2週間ホルターを用いた検討結果を踏まえ、アブレーション前後の患者マネジメントにおける有用性を概説する。さらに、長期ホルターを活用した今後のAF診療の展望についても考察する。

アブレーション外来で始めるSASスクリーニングとCPAP管理 —2026年診療報酬改定を踏まえて—

吉澤 尚志

独立行政法人国立病院機構京都医療センター 循環器内科

睡眠時無呼吸症候群（SAS）と心房細動（AF）の関連は古くから指摘されており、特に閉塞性睡眠時無呼吸（OSA）の適切な管理がAF発症・アブレーション後再発を抑制することが報告されている。

従来、簡易SAS検査でのCPAP導入は、AHI40以上の重症例とされており、AHI30～40の症例では入院での終夜睡眠ポリグラフィー（PSG）を要していた。臨床的な重症度とCPAP導入可否との間に解離が生じており、日常診療におけるOSA管理のハードルとなっていた。

2026年6月の診療報酬改定では、簡易検査でAHI30以上の症例について外来でのCPAP導入が可能となり、導入が簡便になる一方、在宅管理料の見直しや使用状況モニタリングを評価する加算の新設など、継続管理が一層求められる方向となっている。

本講演では、アブレーション外来におけるSASスクリーニングからCPAP導入・継続管理までの流れを、改定内容を交えて概説したい。

共催:カテーテルアブレーション関連秋季大会2026
フクダ電子株式会社